

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3191500101	
法人名	株式会社 あかり	
事業所名	グループホームあゆみ	
所在地	鳥取県西伯郡伯耆町大殿1089-8	
自己評価作成日	令和6年2月12日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/31/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&Ji_gyosyoCd=3191500101-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号
訪問調査日	令和6年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「グループホームあゆみ」は、東に大山、北に日野川と自然に恵まれたところに位置し、認知症があっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けたいとの願いに応えて令和4年6月につくられました。私たちは生活を共にするパートナーとして、「その人らしく、馴染みの地域でゆっくり、一緒に、いつまでも」の運営理念のもとに、その人らしい生活を大切に、ゆっくり、ゆったりと自分らしく暮らせるように、ひとりひとりにふさわしいケアをめざしています。近郊には、スーパー・コンビニやドラッグストア、寺や神社があり、利便性の良い場所に位置しています。また地域のイベントに作品を出品したり、同一敷地内にあるサービス付き高齢者住宅と合同のイベントにも参加して頂いています。ホームでの行事に力を入れ、ご利用者のストレス軽減と笑顔で生活していただけるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して2年経過しているホームは、職員の支援動線の環境の良い平屋、2ユニットのグループホームです。駐車場から大山が望め、サービス付き高齢者住宅とコンビニが隣接しています。町役場や公民館、スーパー等も近く、職員は利用者と共に徒歩で行ける範囲にあり、リハビリや気分転換で外出、散策しておられ、ホームに閉じこもらず、日常的に外出できるよう工夫がなされています。今後、まだまだ発展が期待されるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく、馴染みの地域でゆったり、一緒にいつまでも」の理念のもとその人らしく、安心して過ごしていけるようなケアを実践している。理念はホールや事務所に掲示している。	ホームの理念はホームのホールにも掲げてありました。管理者は毎月の職員会議や研修等で理念について説明を行い、実践につなげていけるよう共有し、ケアに活かせるよう努められています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。隣接するサービス付き高齢者住宅と合同の行事を行っている。公民館など意識的に地域の施設に出向いたりしている。	自治会にも参加されています。同一敷地内の高齢者住宅と合同の行事に参加されています。また、公民室にホーム便りを持参したり、利用者と一緒に図書室に本を借りに行く等しておられます。隣接しているコンビニにも利用者と日常的な買い物に出掛けておられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所のご相談に来られた方には入所に関わらず、ご相談にのらせて頂いている。運営推進会議に自治会の方も参加して頂き、感染症流行状況の発信などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者及びご家族、自治会長、民生委員、駐在所警察官の方に参加を依頼している。入居者様の状況報告、活動報告、介護事故・ひやりはっと報告など行って、アドバイスや意見を頂いている。	2ヶ月に1度開催されています。ホームの活動内容の報告中心に行われています。地域からは自治会長や民生委員、駐在所の警察官、地域包括等の方々に参加頂いています。会議では、現在地域で発生している注意喚起等の啓発もあります。	テーマを決めて関係機関に参加の呼び掛けたり、ホームの取組み状況を実際に見てもらうなど、多方面からホームの取組みについて理解してもらい、協力関係の構築やサービスへの意見を抽出できるような視点の転換をされ事も良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村が開催する講座にはなるべく参加している。運営上での不明な点の相談な連絡を取り合って協力関係を築くように努めている。運営推進会議の案内は手渡しするなど顔の見える関係に努めている。	行政に在宅での支援困難事例についての相談で関わって頂く事もありました。行政が開催する研修についても積極的に参加するように努められています。包括支援センターとも連携・情報の共有など密な関係作りにも努められています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回身体拘束廃止委員会を開催している。年2回の研修の他、委員会でも勉強会を行っている。禁止の対象となる具体的な行為にとどまらず、スピーチロックにならないよう言葉かけなどに配慮している。身体拘束の実績はなし。	身体拘束の実態はありません。研修会や法人の身体拘束委員会による勉強会など定期的実施されており、スピーチロックなどの具体的な行為についても確認が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年4回虐待防止委員会を開催している。年2回の研修の他、委員会でも勉強会を行い虐待防止に努めている。言葉遣いや不適切ケアなど虐待の芽となりうる事柄についても委員会で見直しを行っている。	身体拘束同様、虐待防止についても定期的に研修や法人の委員会による勉強会に努めておられます。言葉掛けや不適切なケアについても注意を払い防止に努めておられます。行政から虐待疑いのケースについての入所相談にも対応されました。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部研修への参加や法人内研修を行っている。職員会議での勉強会で全員が再確認し、理解を深める機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・改定時などの際は、わかりやすい言葉でお伝えするよう心掛けている。疑問や不安がある場合は、その都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱をホーム玄関へ設置したり、運営推進会議で出された意見等に対して、話し合いを行っている。家族から意見が出やすいよう、毎月利用者のホームでの様子や体調等について、来所時や電話、広報誌にて報告している。	運営推進会議での意見や面会時に家族から頂いた意見・要望について、ホームで話し合い適宜対応がなされています。意見箱の設置もあります。また、ホームでの様子や日々の様子や健康状況についても広報誌や電話等で報告が行われています。	ホームにとって家族からの意見や相談と苦情の違いについては信頼関係にあると思います。「何でも」「誰にでも」表出できる関係性の構築が出来ると苦情が相談に変わるものと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議を毎月開催し、管理者は職員と話し合い、意見提案があった際は迅速に対応している。	毎月開催する職員会議で出された意見・要望については法人と話し合い適宜対応されています。利用者がよりよい日常が送れるように、行事の充実やレクリエーションに必要なミニ畑の種・苗の購入など様々な要望・提案に柔軟な対応に努めておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの適正に合った役割を決め、責任感を持ってもらっている。給与・労働時間・職場環境は、職員の状況に合わせた働き方に対応している。	職員の状況に合わせた就業環境になるよう配慮がなされています。職員個々の適正にあった役割や責任等についても、自主性が持てるよう環境整備が行われています。介護による時短就労や休憩時間の配慮など柔軟な対応がなされています。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	eラーニングを活用した研修に加え、委員会時にも勉強会を実施し、職員のスキルアップに努めている。	法人の委員会での勉強会や研修会、eラーニングの活用など実施し職員のスキルアップに努められています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会を通じたネットワークやグループ法人をはじめとした他事業所と意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、自宅や入院先、または当ホームにて直接お会いし、面談を行っている。身体状況や生活歴等を把握すると同時に、不安や要望について傾聴し、丁寧に説明することで信頼関係を構築できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や電話問合せなど、気軽に相談できるように配慮している。また相談時に介護状況や困ったことなどをお伺いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や申し込みに来られた際、その方の状況やすぐに入居できないときには他のサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「その人らしく、馴染みの地域でゆつくり、一緒に、いつまでも」の理念の下、職員とご入居者が一緒に家事などを行い同じ時間を共有できるよう配慮している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナが第5分類になり通常の面会・外出などを再開した。利用者と家族の関係や双方の思いを把握した上で、情報の共有に努めている。電話連絡や毎月の広報・お便りで普段の様子を知ってもらえるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室やスーパーに行くなど、これまでの生活が継続できるように配慮している。ご友人の面会などもある。	近隣の馴染みのスーパーや美容院への外出等、個々の意向に沿えるよう対応がなされています。また、週5回自宅に帰宅しておられる利用者もおられます。外出を嫌う方に対しては、隣接している老人ホーム併設のデイサービスに来ては友人を訪ねていくなどの支援がなされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士話がしやすい様にリビングでの席に配慮している。レクなどご利用者同士が協力しやすいよう職員が間に入り支援をしている。生活を共にする事で自然と散歩に誘い合うなどそれぞれの関係が出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても相談を受けた際は、状況に合わせて支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はご利用者との日常会話からその方の思いをくみ取るように心がけている。把握した内容は職員間で共有し、必要時ケアプランに反映させている。	意向や希望を表出できる方は、ご本人様や家族から引き出して行けませんが、表出が難しい方は、日々のつぶやきや行動から読み取ったり、拾い上げられるように配慮し、拾い上げた情報は職員間で共有し、サービスやケアプランに反映できる様に努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に関係機関より情報提供して頂いたり、ご家族・ご本人より生活歴など聞き取りをし把握に努めている。入所後もコミュニケーションの中から聞き出し把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の体調や心身の変化を観察して早期発見に努め、変化があれば家族や関係機関連絡、相談を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が安心して楽しく暮らせるように、ご利用者・家族の意見を聞きながら、職員で話し合い介護計画を作成している。計画に対しての評価は毎月行っている。	利用者・家族等の意向や希望を踏まえ、多職種の職員による話し合いを行い計画作成が行なわれています。定期的にモニタリングや評価の実施もなされていました。	日常的にご本人様やご家族様の役割などがケアプランに位置付けがあると良いと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の記録の中で、気になる部分は特記事項に記入する事で気づきの共有を図っている。介護方針や手法の変更については、申し送りに明記し情報の共有を図っている。	ICT連携でタブレット記録が行われています。日々の業務の気づきや引継ぎ事項に関しては、抜け落ちが生じないように申し送りの記録に明記し、職員間で情報共有が行われています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方におられるなど状況に応じて外部受診の介助を行うなど通常の介護業務の範囲にとらわれない支援を行っている。介護についてもご利用者に合った方法、環境づくり、声掛けなどを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントに作品を出品したりしている。隣接するサービス付き高齢者住宅と合同で防災訓練時に消防署や地域の方々の協力を仰いでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループ法人の医療機関と連携し定期的な訪問診察の他、休日・時間外の対応もしている。専門医やこれまでのかかりつけ医の受診を継続していただくことも出来る。近隣の医院が協力医となっており、夜間・休日など緊急時の対応を依頼している。	法人の医療機関が協力医療機関の一つにもなっており、訪問診療が定期的に行われています。状況に応じて往診の対応も出ています。また、状況に応じて協力医である近隣の開業医の臨機応変な対応・受診も出ています。専門医への受診は、原則家族対応となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットに1名ずつ常勤の看護師を配置している。職場内の看護師と介護士が日々の状態を把握し、状態によって医師に相談し受診・往診を依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院の地域医療連携室と連絡を取り合い、早期に退院が出来るように、情報交換や相談に努めている。介護支援専門員や看護師が退院後の生活について医療関係者、地域連医療連携室と話し合っている。	入退院時は、医療機関の連携室を通じて綿密な情報の交換・共有が行われています。治療状況や進捗状況によっては、部屋を確保し馴染みの環境対応も行っておられます。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重度化指針を説明している。終末期のあり方については、本人を交え、かかりつけ医とご家族と話し合い、改めてホームでできることを説明し、方針を決定することとしている。	ホームのハード面において、座位や移乗が出来ないと入浴に課題が生じてしまう為、重度化になったときの対応について入所時家族への説明がしっかり行われています。ターミナルへの対応は状況を見ながら医師、家族、ホームで相談して支援・対応しておられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時・事故発生時のマニュアルを整備し、いつでも閲覧できるようにしている。AEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を隣接するサービス付き高齢者住宅と合同で計画・実施している。BCPを作成し、3日分の食料などを備蓄している。	年2回避難訓練が行われています。夜間も想定している訓練実施が隣接している高齢者ホームと一緒に行われています。BCPも作成されており、備蓄も完備がなされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや接遇、プライバシーの保護については研修時に注意喚起を行っている。自尊心を傷つけないようさりげない介護となるよう心がけている。	自尊心への配慮やさりげない介護の心掛け出来るように、管理者は研修や職員会議等で都度話をされています。	職員と利用者様の会話をなされる視線の高さや支援内容によっては声のトーンなどへの配慮される事に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中での会話を通して、本人の思いや要望を表せるように働きかけ、自己決定できるようにしている。意思表示が困難な利用者でも、表情やしぐさ等から読み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまでの生活習慣やその日ごとの体調や気分等の変化により本人の意向を確認しその日の状態に合わせた生活ペースや過ごし方に、職員が合わせる方針にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に服を選んだり、困難な方は自立されていた時の着方や好みを参考にし身だしなみを整えている。一緒に準備や着替えをする事でおしゃれが出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の苦手な献立の時は、メニューを差し替えたり、好みに合せ食べてもらうよう努めている。職員と一緒に準備や後片付けをしていただいている。毎月手作り料理の日を設け、ご利用者の好みや季節・イベントに配慮したメニューを提供し楽しみを持っていただいている。	出来る事を出来る方がそれぞれの役割で職員と一緒に準備等を行ってもらっておられます。毎月手作り料理の日も設けておられ季節に応じたメニューも提供されています。行事食やおやつ作り、レクリエーション等も行われています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を記録し、栄養状態の把握に努めている。摂取量が少ないときは声掛けを行ったり、本人様の好むものを提供したり、時間を分けたりと工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。義菌の洗浄、歯ブラシ、コップが不衛生にならないよう定期的に消毒をしている。磨き残しがないように職員が確認し、出来ないところはお手伝いし保清に努めている。	毎食後の利用者個々の能力に応じた口腔ケアの支援を実施されていました。義菌の方については就寝時に消毒が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行ない、個人記録に時間と排尿・排便の有無を記載して、排泄パターンを職員全員が把握できるようにしている。また全面的に介助が必要な方でも誘導を行ない、出来るだけトイレで排泄していただけるよう支援している。	利用者個々の排泄パターンを記録より把握し、個々のADLの能力や状況に応じた排泄方法を提供されています。出来るだけトイレで排泄が継続できるよう支援がなされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況が一目でわかるよう排便チェック表を作成し職員全員で情報を共有。個人の排便の有無等を記入して状態把握に努めている。便秘傾向の方には水分摂取を促したり、ヨーグルトを提供するなどの工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の状態に応じて入浴・清拭を行い清潔保持している。入浴拒否の方には、無理強いすることなく時間や日程を変更したり、言葉かけの工夫をして対応している。季節により柚子湯など楽しんで頂いている。	週2回入浴出来る様支援が行われています。拒否のある方については、順番や日程の変更など柔軟な対応がなされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝の消灯時間の目安はあるが、ご利用者が希望される時間に入室・就寝して頂いている。日中の休息は、昼夜逆転にならないよう配慮し、その時々体調もみながら、休息の時間を設けている。また、季節によつ寝て具調整を行うとともに、居室の温度管理にも気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイルにまとめ、職員がいつでも確認できるようにしている。毎日の申し送りや健康観察で症状を観察して、受診時に情報を提供できるようにしている。かかりつけ薬局と連携をしている。	管理者はじめ、職員に看護師は2名おられ、服薬については、留意事項や配慮、管理等行われています。薬剤ファイルに個々の情報は綴じられ一元的に管理ができています。利用者への誤薬は生じていません。薬の変更、容量に変化があった場合には、職員全体で確認し、変化があればかかりつけ医の指示を仰いでおられます。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に生活歴や趣味・特技等を教えてもらい、日々の余暇活動に活かし、反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	プランターに花を植えたり、敷地内や近隣の散歩等で季節感を感じられるよう工夫をしている。 ドライブの他、スーパー・コンビニや神社などにも外出している。	近隣のコンビニに買い物や神社への参拝、スーパーへの外出、週5回帰宅する方等、臨機応変対応がなされています。外出を嫌う方に対しては、隣接している老人ホーム併設のデイサービスに来ている友人を訪ねていたり、駐車場を散歩したり、職員が公民館や町役場へ用事がある時に一緒に出掛けるなど外出できるよう支援がなされています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には立替により買い物ができるようにし、領収証は家族へ郵送している。 希望により自身でお財布を持ち、買い物して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から要望があるときは職員が付き添い、希望されるところへ電話をかけている。ご家族からの電話があったときは取り次いで、会話の支援を行っている。年賀状のやり取りを行っている。携帯電話で自由に電話されている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには季節を感じていただけるような飾り付けを行っている。また、入居者様が安全に移動できるよう環境整備・整理整頓を心がけている。チャイムなどがテレビの音の妨げにならないよう配慮している。	共有空間は、温度やTVや音楽の音量、照明の明るさ等適度に持たれており、移動等しやすい様環境整備がなされていました。利用者が作った作品等も飾られ、季節感の感じられる装飾も行われていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは、寛いで過ごせるようにソファを置いている。ユニット間を入居者様が自由に移動し、気の合う方と過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人の思い入れのある物、使い慣れた物は持ってきていただくように声掛けをしている。家族の写真や小物なども置き、本人様が好まれる空間作りができるよう支援している。	個々の愛用品が自室に持ち込まれており、換気や片付け心地よく過ごせるよう配慮・環境整備となっていました。利用者個々に合せた動線の確保されてレイアウトとなっていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームには手すりやスロープが付いており、安全に生活が送れるように工夫している。居室やトイレの場所がわからなくなる方には、扉にわかりやすいように名前を貼るなど工夫している。		